年度寮

野こ 迪寮に若き男子等が も赤き夕手稲 しき希望 望満

呼力もて進まん

に消えるか Ì ムに な

。くかこの石狩平野。 の声を

北溟粉雪になる

荒談

れ

夜ゃ

の波が

詩を忘却さ 理" 想" 呼その自治寮創造くかぁ 心の存在求めて れ ぬ若人が

胸言 鳴呼この青春も早や行かんぁぁ 拙なっ ; き言葉 操: い内を打ち明け りて

酔ない も静寂まりて

も巡れ

夕暮風の涼 の悲し

しさに

鳴呼この 郭かっこう の暗声 の彼方微かなる 初夏も過ぐるかな の清い らか 3

鳴ぁ雁が楡に

ŋ

ħ

る

の原始林

暮く

み知れるか

な

呼ぁ

我が憂ひすずろかな

な 北斗煌、

鳴呼 涙 して更く 明日の旅路を思い 明日の旅路を思い するだ。 を かあななだ。 があるなだ。 でして更く の旅路を思いつつ して更くる夜

鳴ぁ冷っ白ゅ疎マ 呼ぁ徹ゕ雪き々マ 雪舞う木立烈風 呼声もなく迪を行く たき真理索め たる原始林 に我れ Ĺ 強い 人と ح ζ

鳴ぁ 南なん 呼ぁ 風ぶっ 若が春は Iき 明 日 た rcの別離永却な 風頻りに頬を打の ^{のしましま} ロの祝極と か

らず

辰 明 君 作 作 詇

Ш

森聡

君

Ш̈́